
(参考資料)残高証明書CSVの出力仕様
一般債振替制度

2021年11月システム適用

第2.1版



株式会社証券保管振替機構

(参考資料)残高証明書C S Vの出力仕様 一般債振替制度 変更歴

項番	作成基準年月	変更番号	版	開示日	備 考
1	2013年12月	-	2014年 1月システム適用 第1.0版(暫定版)	2013年12月 2日	
2	2013年12月	-	2014年 1月システム適用 第1.0版	2014年 1月 6日	
3	2015年12月	1	2014年 1月システム適用 第1.01版	2015年12月10日	
4	2017年 3月	2	2017年 3月システム適用 第1.1版	2017年 3月27日	
5	2020年11月	3	2020年11月システム適用 第2.0版	2020年11月24日	
6	2021年12月	4	2021年11月システム適用 第2.1版	2021年12月30日	
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					

(参考資料)残高証明書CSVの出力仕様 一般債振替制度 第1.01版

項番	変更 区分	変更ページ	変 更 点	仕様変更概要書 案件番号	備 考
1	追加	10	表8下に「※2」(請求時に区分口座指定が行われた場合の出力に係る説明文)を追記	—	—

(参考資料)残高証明書CSVの出力仕様 一般債振替制度 第1.1版

項番	変更 区分	変更ページ	変 更 点	仕様変更概要書 案件番号	備 考
1	変更	3	表2について、※5として区分口座指定ありの場合に「合計レコード（使用目的）」および「合計レコード（全区分口座）」を出力しない旨追記。	-	システム改修に伴う修正
2	変更	10	表8について、区分口座指定ありの場合に、「合計レコード（使用目的）」及び「合計レコード（全区分口座）」における出力レコード結果を「×」に変更。	-	システム改修に伴う修正

(参考資料)残高証明書C S Vの出力仕様 一般債振替制度 第2. 0 版

項番	変更 区分	変更ページ	変 更 点	仕様変更概要書 案件番号	備 考
1	変更	全般	2 0 2 0 システム稼働に伴う改訂。	—	

(参考資料)残高証明書CSVの出力仕様 一般債振替制度 第2. 1版

項番	変更 区分	変更ページ	変 更 点	仕様変更概要書 案件番号	備 考
1	変更	2	表1 レコードの種類の項番3の識別方法を' S3' から' S1' に修正	—	誤記載
2	変更	4、12	表4 残高レコードと表12 明細レコードの項番5の区分口座名称の編集内容を区分口座指定なしでも設定するよう変更。 (保持している区分口座毎に残高がない場合は残高0、明細がない場合は明細金額0としてレコードを作成する)	—	
3	変更	6、14	上記項番2の変更による図1、図2のCSVファイルイメージを変更。	—	

(参考資料)残高証明書C S Vの出力仕様 一般債振替制度 目次

1. はじめに	1
2. 文字コード.....	1
3. データレコードについて.....	1
(1)出力形式.....	1
(2)ファイル構成.....	2
a. 機構加入者別口座残高表 (S B)	2
b. 機構加入者別口座処理明細表 (S B)	11

1. はじめに

一般債振替制度に関する振替口座簿記録事項証明書（以下「残高証明書」という。）のCSVファイルの仕様について記述したものである。

- ・ 機構加入者別口座残高表（S B）
- ・ 機構加入者別口座処理明細表（S B）

2. 文字コード

UTF-8とする。

3. データレコードについて

（1）出力形式

- ・ 各項目はダブルクォーテーション「”」で囲み、各項目間は「,」で区切る。
- ・ 改行コードは「CR+LF」を用いる。

出力例)

"B10","D0","1111111","999999999","ZZZZZ"【改行(CR+LF)】

"B10","D1","1111111","999999999","ZZZZZ"【改行(CR+LF)】

【EOF】

(2) ファイル構成

a. 機構加入者別口座残高表 (S B)

(a) 共通

C S Vファイルは以下のレコードで構成する。

表1 レコードの種類

項番	レコード名	識別方法
1	指定日の先頭レコード	第二項目 (レコード区分) の値が'D0'
2	残高レコード	第二項目 (レコード区分) の値が'D1'、'D2'、'D3'
3	合計レコード (区分口座)	第二項目 (レコード区分) の値が'S1'
4	合計レコード (利用目的)	第二項目 (レコード区分) の値が'S2'
5	合計レコード (全区分口座)	第二項目 (レコード区分) の値が'S3'

(b) ファイル構成

以下にCSVファイルの構成及びファイルイメージを記載する。

表2 ファイル構成

指定日 A							指定日 N	
1 指定日の先頭レコード	利用目的 A				4 合計レコード (利用目的) (※3) (※5)	利用目的 N		5 合計レコード (全区分口座) (※5)
	区分口座 A		区分口座 B			区分口座 N		
	2 残高レコード (※1) 1 ～ N	3 合計レコード (区分口座) (※2)	残高レコード 1 ～ N	合計レコード (区分口座)		残高レコード 1 ～ N	合計レコード (区分口座)	
	※4 参照							

※1 残高レコードのシーケンス

証明対象日 (昇順) > 利用目的区分 (昇順) > 区分口座 (昇順) > I S I Nコード (昇順) > 通貨
通貨の出力順序は「JPY」を先頭とし、その他はアルファベット順とする

※2 合計レコード (区分口座) は区分口座 A の残高レコードを全て出力した後に出力する

※3 合計レコード (利用目的) は利用目的 A の残高レコードを全て出力した後に出力する

※4 指定日 A と同様

※5 請求時に区分口座指定が行われた場合には出力しない

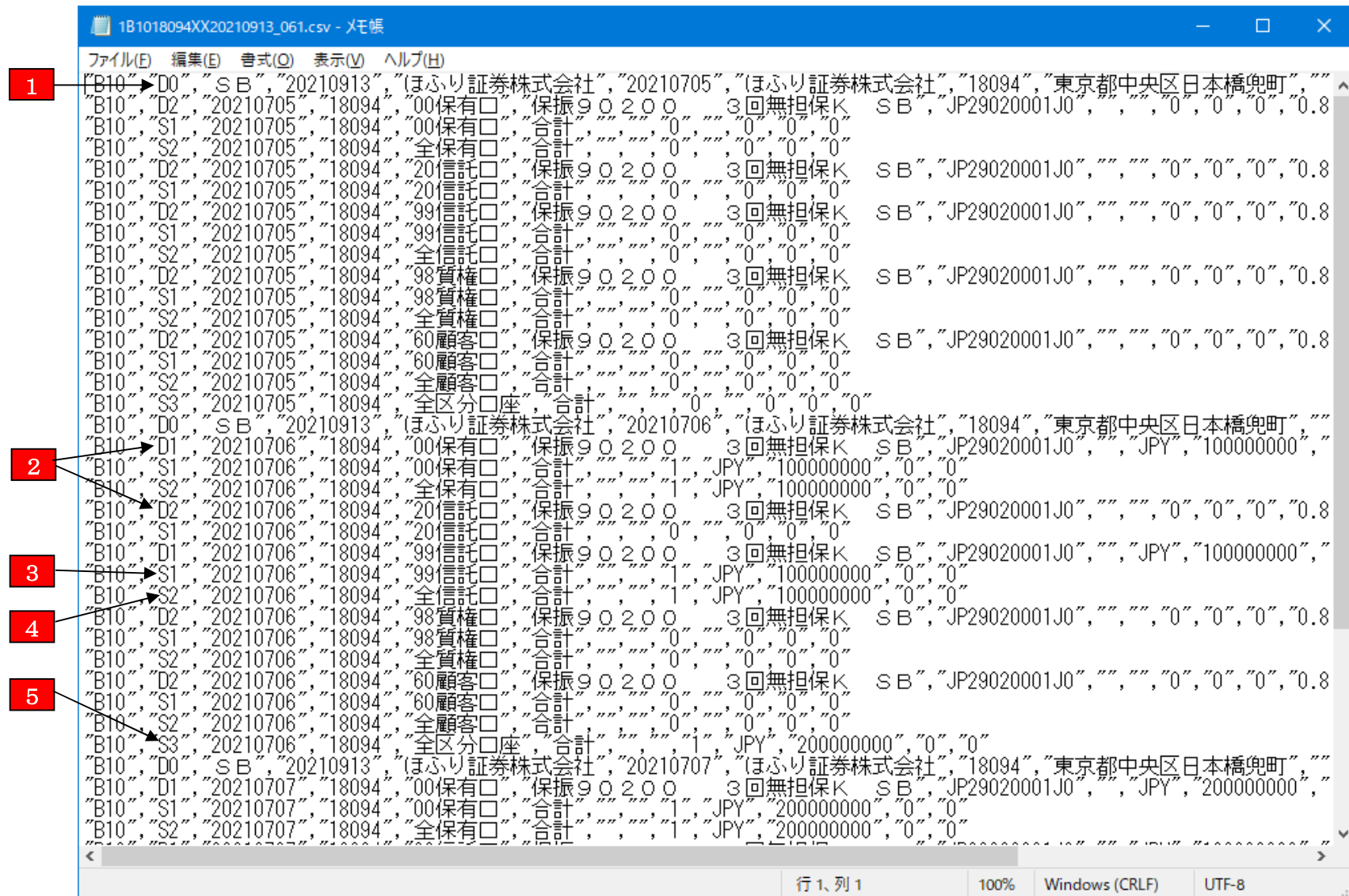


図1 CSVファイルイメージ (2021年7月5日～7月7日の期間を証明対象日に指定)

(c) レコード構成

以下に各レコードの構成及び項目の説明を記載する。

表 3 指定日の先頭レコード

項番	項目名	最大桁数	編集内容
1	請求区分	3	'B10' をセットする。
2	レコード区分	2	'D0' をセットする。
3	制度種別	2	'S B' をセットする。
4	請求日	8	「請求日」をセットする。
5	機構加入者正式名(直近)	100	直近の「機構加入者正式名」をセットする。
6	証明対象日	8	「証明対象日」をセットする。
7	機構加入者正式名	100	証明対象日の「機構加入者正式名」をセットする。※1
8	口座管理機関コード	5	「口座管理機関コード」をセットする。
9	機構加入者の住所	200	証明対象日の「機構加入者の本店所在地」をセットする。※1
10	区分口座コード	2	・区分口座指定ありの場合、「区分口座コード」をセットする。 ・区分口座指定なしの場合、null をセットする。

※1 証明対象日が 2020 年 11 月 23 日以前の場合、null をセットする。

表4 残高レコード

項番	項目名	最大桁数	編集内容		
1	請求区分	3	'B10'をセットする。		
2	レコード区分	2	残高ありの場合、'D1'をセットする。	銘柄指定ありで残高なしの場合、'D2'をセットする。	銘柄指定なしで残高なしの場合、'D3'をセットする。
3	証明対象日	8	「証明対象日」をセットする。		
4	口座管理機関コード	5	「口座管理機関コード」をセットする。		
5	区分口座名称	32	「区分口座」＋「利用目的区分名称」をセットする。		
6	銘柄名称	200	「銘柄名称」をセットする。		null
7	I S I Nコード	12	「I S I Nコード」をセットする。		null
8	予備	—	null		
9	通貨コード	3	「通貨コード」をセットする。	null	
10	残高	14	証明対象日の「現在残高」をセットする。	'0'をセットする。	
11	内手続中・償還口残高	14	証明対象日の「内手続中・償還口残高」をセットする。	'0'をセットする。	
12	内凍結残高	14	証明対象日の「内凍結残高」をセットする。	'0'をセットする。	
13	ファクター	12	証明対象日の「補正ファクター」又は「現在ファクター」をセットする。		null
14	発行体名称	100	「発行体名称」をセットする。 ※1	null	

※1 証明対象日が2020年11月23日以前の場合、nullをセットする。

表 5 合計レコード（区分口座）

項番	項目名	最大桁数	編集内容
1	請求区分	3	'B10' をセットする。
2	レコード区分	2	'S1' をセットする。
3	証明対象日	8	「証明対象日」をセットする。
4	口座管理機関コード	5	「口座管理機関コード」をセットする。
5	区分口座名称	32	「区分口座」＋「利用目的区分の名称」をセットする。
6	銘柄名称	2	固定文言「合計」をセットする。
7	I S I Nコード	—	null
8	予備	—	null
9	銘柄数	5	機構加入者口座毎の「銘柄数」をセットする。
10	通貨コード	3	「通貨コード」をセットする。
11	残高	15	機構加入者口座毎の「残高」合計をセットする。
12	内手続中・償還口残高	15	機構加入者口座毎の「内手続中・償還口残高」合計をセットする。
13	内凍結残高	15	機構加入者口座毎の「内凍結残高」合計をセットする。

表 6 合計レコード (利用目的)

項番	項目名	最大桁数	編集内容
1	請求区分	3	'B10' をセットする。
2	レコード区分	2	'S2' をセットする。
3	証明対象日	8	「証明対象日」 をセットする。
4	口座管理機関コード	5	「口座管理機関コード」 をセットする。
5	区分口座名称	32	固定文言「全」＋「利用目的区分名称」 をセットする。
6	銘柄名称	2	固定文言「合計」 をセットする。
7	I S I Nコード	—	null
8	予備	—	null
9	銘柄数	5	利用目的毎の「銘柄数」 をセットする。
10	通貨コード	3	「通貨コード」 をセットする。
11	残高	15	利用目的毎の「残高」 合計をセットする。
12	内手続中・償還口残高	15	利用目的毎の「内手続中・償還口残高」 合計をセットする。
13	内凍結残高	15	利用目的毎の「内凍結残高」 合計をセットする。

表 7 合計レコード（全区分口座）

項番	項目名	最大桁数	編集内容
1	請求区分	3	'B10' をセットする。
2	レコード区分	2	'S3' をセットする。
3	証明対象日	8	「証明対象日」をセットする。
4	口座管理機関コード	5	「口座管理機関コード」をセットする。
5	区分口座名称	5	固定文言「全区分口座」をセットする。
6	銘柄名称	2	固定文言「合計」をセットする。
7	I S I Nコード	—	null
8	予備	—	null
9	銘柄数	5	証明対象日の「銘柄数」をセットする。
10	通貨コード	3	「通貨コード」をセットする。
11	残高	15	証明対象日の「残高」合計をセットする。
12	内手続中・償還口残高	15	証明対象日の「内手続中・償還口残高」合計をセットする。
13	内凍結残高	15	証明対象日の「内凍結残高」合計をセットする。

(d) その他

以下に抽出対象の指定方法と出力レコードの関係について記載する。

表 8 抽出対象の指定方法と出力レコードの関係

項番	レコード名	抽出対象の指定方法							
		残高あり				残高なし			
		銘柄指定あり		銘柄指定なし		銘柄指定あり		銘柄指定なし	
		区分口座 指定あり	区分口座 指定なし	区分口座 指定あり	区分口座 指定なし	区分口座 指定あり	区分口座 指定なし	区分口座 指定あり	区分口座 指定なし
1	指定日の先頭レコード	○	○	○	○	○	○	○	○
2	残高レコード	○	○	○	○	○	○	○	○
3	合計レコード（区分口座）	○	○	○	○	○	○	○	○
4	合計レコード（利用目的）	×	○	×	○	×	○	×	○
5	合計レコード（全区分口座）	×	○	×	○	×	○	×	○

b. 機構加入者別口座処理明細表（S B）

（a）共通

C S Vファイルは以下のレコードで構成する。

表9 レコードの種類

項番	レコード名	識別方法
1	指定日の先頭レコード	第二項目（レコード区分）の値が'D0'
2	処理明細レコード	第二項目（レコード区分）の値が'D1'、'D2'、'D3'

（b）ファイル構成

以下にC S Vファイルの構成及びファイルイメージを記載する。

表10 ファイル構成

指定日 A			指定日 N
1	区分口座 A	区分口座 N	※2 参照
先指定日の 頭レコード	2 1 処 理 明 細 レ コ ー ド (※1)	1 処 理 明 細 レ コ ー ド N	

※1 明細レコードのシーケンス

証明対象日（昇順）＞区分口座（昇順）＞I S I Nコード（昇順）＞処理時刻（昇順）

※2 指定日 Aと同様

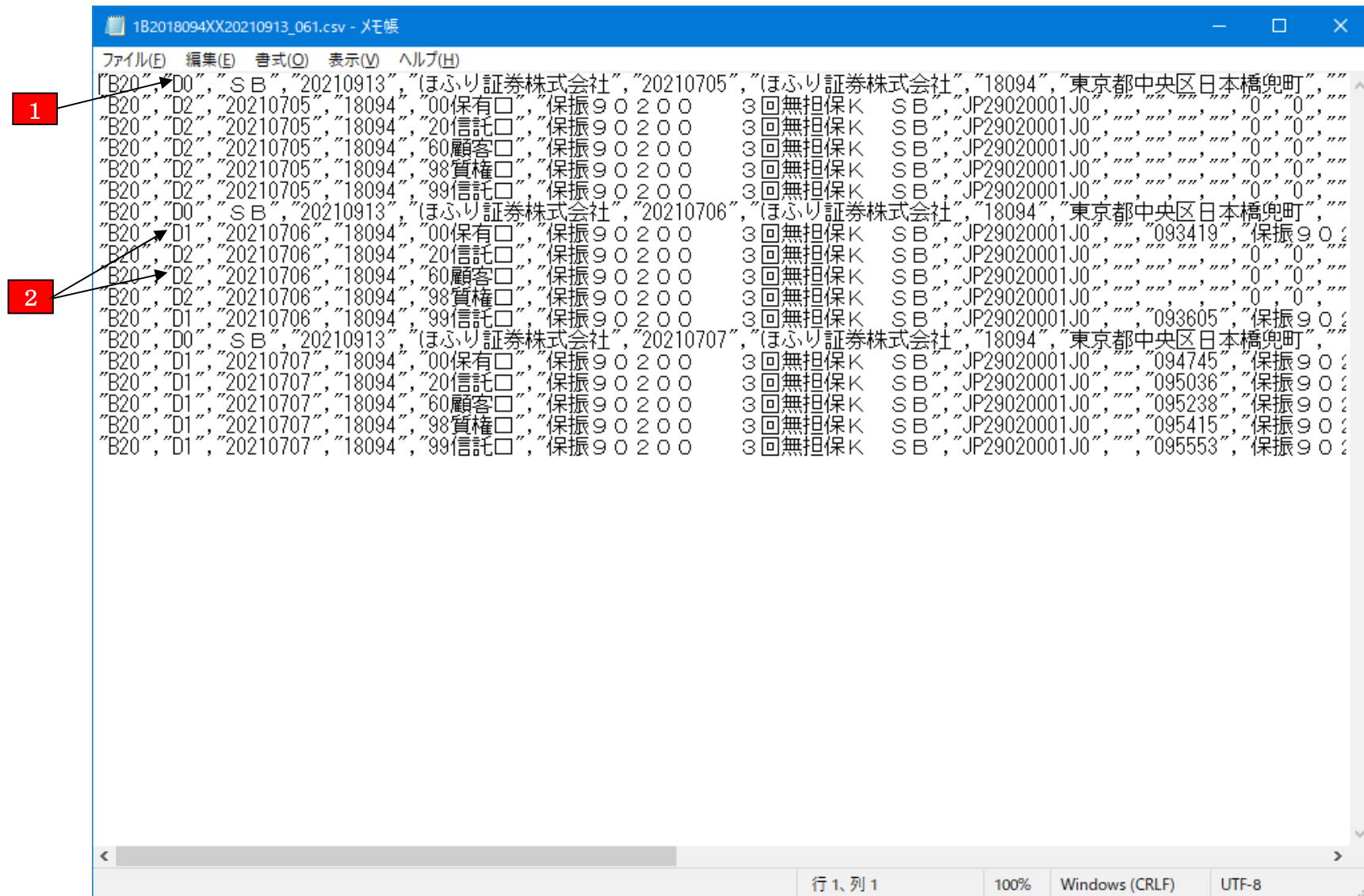


図2 CSVファイルイメージ (2021年7月5日～7月7日の期間を証明対象日に指定)

(c) レコード構成

以下に各レコードの構成及び項目の説明を記載する。

表 11 指定日の先頭レコード

項番	項目名	最大桁数	編集内容
1	請求区分	3	'B20' をセットする。
2	レコード区分	2	'D0' をセットする。
3	制度種別	2	'S B' をセットする。
4	請求日	8	「請求日」をセットする。
5	機構加入者正式名(直近)	100	直近の「機構加入者正式名」をセットする。
6	証明対象日	8	「証明対象日」をセットする。
7	機構加入者正式名	100	証明対象日の「機構加入者正式名」をセットする。※1
8	口座管理機関コード	5	「口座管理機関コード」をセットする。
9	機構加入者の住所	200	証明対象日の「機構加入者の本店所在地」をセットする。※1
10	区分口座コード	2	・区分口座指定ありの場合、「区分口座コード」をセットする。 ・区分口座指定なしの場合、null をセットする。

※1 証明対象日が 2020 年 11 月 23 日以前の場合、null をセットする。

表 12 明細レコード

項番	項目名	最大桁数	編集内容		
1	請求区分	3	'B20' をセットする。		
2	レコード区分	2	明細ありの場合、'D1' をセットする。	銘柄指定ありで明細なしの場合、'D2' をセットする。	銘柄指定なしで明細なしの場合、'D3' をセットする。
3	証明対象日	8	「証明対象日」をセットする。		
4	口座管理機関コード	5	「口座管理機関コード」をセットする。		
5	区分口座名称	32	「区分口座」＋「利用目的区分名称」をセットする。		
6	銘柄名称	200	「銘柄名称」をセットする。		null
7	I S I Nコード	12	「I S I Nコード」をセットする。		null
8	予備	－	null		
9	処理時刻	6	「処理時刻」をセットする。	null	
10	発行体名称	100	「発行体名称」をセットする。※1	null	
11	通貨コード	3	「通貨コード」をセットする。	null	
12	金額・増加	16	・「金額・増加」をセットする。 ・増減事由が凍結解除の場合、()付きで編集する。	'0' をセットする。	
13	金額・減少	16	・「金額・減少」をセットする。 ・増減事由が凍結の場合、()付きで編集する。	'0' をセットする。	
14	増減事由	15	「増減事由」をセットする。	null	
15	増減事由コード	4	「増減事由コード」をセットする。	null	
16	リファレンス番号	16	「社債等リファレンス番号」をセットする。	null	
17	D V P 区分名称	4	「D V P 区分名称」をセットする。	null	

項番	項目名	最大桁数	編集内容	
18	相手方機構加入者名称	38	「相手方機構加入者名称」＋「利用目的区分名称」をセットする。	null
19	相手方機構加入者コード	7	「相手方機構加入者コード」をセットする。	null
20	発行・支払代理人略称	8	「発行・支払代理人略称」をセットする。	null
21	発行・支払代理人コード	5	「発行・支払代理人コード」をセットする。	null
22	メッセージ1	35	「メッセージ1」をセットする。	null
23	メッセージ2	35	「メッセージ2」をセットする。	null
24	社内処理用項目	35	「社内処理用項目」をセットする。	null

※1 証明対象日が2020年11月23日以前の場合、nullをセットする。

(d) その他

以下に抽出対象の指定方法と出力レコードの関係について記載する。

表 13 抽出対象の指定方法と出力レコードの関係

項番	レコード名	明細あり	明細なし
1	指定日の先頭レコード	○	○
2	処理明細レコード	○	○